1959年1月31日第3種郵便物認可

週刊 うたごえ新聞

1/4・11
（新年合併号）
（1993年）
NO. 1424

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)
日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2—16—36
☎03(3209)0638 FAX 03(3200)0105
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行
1部120円・税4円(〒26円)・月480円・税15円(〒120円)

お芝居は私の学校

劇団こまつ座 代表 井上都さんに聞く

作家・井上ひさしさんの作品を上演していく「こまつ座」。井上都さんは7年前から座の代表取締役。庶民の心を描いて定評のある井上ひさしとこまつ座。若きリーダーの悲喜こもごも。そして、こまつ座の夢を。新春インタビューはこの人に。インタビュアーは高橋正志本紙編集委員（日本のうたごえ全国協議会・事務局長）

高橋 あけましておめでとうございます。

井上 おめでとうございます。

高橋 こまつ座の代表となられて七年、昨年出版されました本「宝物を探しながら」もとても惹かれました。新春に夢と可能性を、と伺いました。代表を引き受けられた時はまだ二十三歳だったんですね。

♥♥ 芝居はやさしく、深く、おもしろく

井上 ええ、あの頃、ずっとこまつ座をやってきた母から父がひきついでやっていた時でしたが、座の代表としてのこまごました仕事で、父の本業である書くことの時間がとれなくなってしまって。まわりのスタッフが心配して、だれか代わりを、と。たまたま私がぶらぶらしていたもんですから。

「都さんはどうだろうか」ということになって、「お前がやってくれたら助かるんだけどな」と父から言われ、一言で父が助かるんならいいかっと、大変な仕事の中身は何も知らず引き受けちゃったんです。（笑い）

父と母がこまつ座の仕事を始めて、私もパンフレット売りチケット送りとか、ほんと猫の手みたいな手伝いをして座の人にかわいがってもらって、楽しかったんですが、それは仕事のレベルとはまったく違う。最近です、やっとこの仕事の苦労がわかりかけてきたという感じですね。

▲高橋正志氏

高橋 僕が最近見たのは「きらめく星座」ですが、こまつ座のモットー〝むつかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをおもしろく〟とありますが、さすがと思いました。何でもそうですが、人に感動をもって伝えるにはこのことは本当に大事なことだとあらためて思います。座の運営にもそれは貫かれていると思いますが。

（6・7面へつづく）

〔新春訪問〕布絵作家 山鹿文子さん（三輪純永記者） 12面
新連載「禁じられた歌」—第1回 ウラジーミル・ヴィソツキー（吉本素子） 8面
浜島康弘 日本のうたごえ全国協議会 幹事長に聞く 4面
〔新春・この人〕作品コンサートを開く—豊田光雄さん 5面
争議団（東北造船）がミュージカル上演 5面

☆連載☆
・「ミュージック・トゥデイ」（日下部吉彦 和田静香）
・「伊藤強の芸能マンスリー」
・「郷土のうたと踊りめぐり」（荒木 一）
・「ちょっと失礼一言半句」（林 学）
・「うたごえ天国」（白 六郎）
・「食は訴える」（三輪純永）